

岩手県の医療通訳者派遣制度の構築に向けて

～外国人が安心して受診できる医療環境を目指す～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究（ステージⅠ）採択課題

課題名：「持続可能な医療通訳者派遣制度の構築に関する研究」

研究代表者：石橋敬太郎（盛岡短期大学部）

課題提案者：奥州市 奥州市国際交流協会

研究チーム員：吉原秋、熊本早苗（盛岡短期大学部） 細越久美子（社会福祉学部）

アンガホッフア司寿子、木地谷祐子（看護学部） 菊地徳行、高橋佐緒里（奥州市）

渡部千春、曾穎（奥州市国際交流協会）

キーワード：多文化共生、外国人向け医療環境整備、医療通訳

研究の概要（背景・目的等）

奥州市では、令和元年度から医療通訳者派遣制度を奥州市国際交流協会に委託して実施している。しかし、当市の医療通訳者派遣制度が十分に理解されていないこと、またケースにより求められるニーズが多様化していることから、様々な課題が顕在化している。本研究では、奥州市医療通訳者派遣制度において生まれたケースを整理し、課題を抽出したうえで、医療通訳ボランティアへの質問紙調査を通して効果の検証を行い、個々の課題に応じた対応策を探ることを目的としている。

研究の内容（方法・経過等）

質問紙およびQRコードを付した調査協力依頼文書を対象者49名に郵送し、郵送あるいはWEB版調査票への回答にて回収した。回答者は33名であった（回収率67.3%）。

これまで得られた研究の成果

A. 医療通訳研修会への参加経験

奥州市の医療通訳研修会に参加した回数は4回以上と回答した人が最も多かった。

イ. 医療通訳経験数

1回がもっとも多く14名で半数を超えた。次いで5回以上が5名、2回が3名、4回が1名であった。

ウ. 医療通訳として派遣された診療科

内科が最も多く、一般成人の対象よりさらに配慮を要する産婦人科、小児科や緊急外来もあった。

エ. 医療通訳での使用言語

- 英語28件、中国語9件、ベトナム語1件

オ. 依頼者との対面時に工夫したこと

- 服装、言葉づかい、態度や表情
- 不安にさせない、話しやすい雰囲気
- 通訳者としての中立的な姿勢

カ. 医療者側との対面時に工夫していること

- 正確な通訳
- 丁寧な説明

キ. 医療通訳時に気を付けていること

- 依頼者と医療者との発言を正確に通訳すること
- プライバシーに対する配慮

ク. 医療通訳時に大変だったこと

- 専門用語の難しさ
- 日常会話とは異なる会話の通訳の難しさ
- 責任の重さ

要望について

医療従事者（病院側）への要望

| カテゴリー | 記述内容 |
|-----------|--|
| 丁寧な説明 | <ul style="list-style-type: none">簡単な日本語で、適度に区切って、丁寧に説明してほしい。説明を通訳し易いように、区切っていただくことを願う。 |
| 医療通訳制度の周知 | <ul style="list-style-type: none">医療通訳サービスを提供できることを外国人患者へ知らせしてほしい。 |

利用者（患者）への要望

| カテゴリー | 記述内容 |
|---------|--|
| 病状などの伝達 | <ul style="list-style-type: none">不明な点があれば、遠慮なく医師や看護師に聞き、積極的にコミュニケーションをとってほしい。事前に症状や質問内容等を箇条書きしておいて頂けると助かる。 |
| 利用者との関係 | <ul style="list-style-type: none">丁寧にサポートするので安心してほしい。プライバシーは互いに尊重したい。 |
| 病院でのマナー | <ul style="list-style-type: none">待合室での雑談時、なるべく静かにしてほしい。 |

まとめ

- 医療通訳ボランティアは、利用者が安心して医療を受けられることを願って、医療通訳の質の向上に対する高い意識をもって活動している。
- 円滑かつ十分な医療通訳を行うには...
 - 医療従事者側のわかりやすく丁寧な説明が必要
 - 利用者には病状など積極的なコミュニケーションが必要

おわりに

奥州市医療通訳派遣制度を実効性の高いものとするために、今後利用する外国人市民に対する調査を実施する。

（謝辞）調査実施にあたり、調査研究にご協力してくださった奥州市医療通訳ボランティアの皆様へ心から感謝申し上げます。